

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

English translation  
for abstract for  
JP8-11981A

(11)Publication number : 08-011981

(43)Date of publication of application : 16.01.1996

(51)Int.Cl.

B65D 88/22

(21)Application number : 06-141519

(71)Applicant : DIATEX CO LTD

(22)Date of filing : 23.06.1994

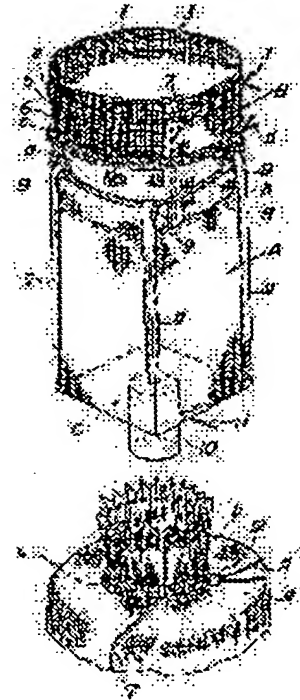
(72)Inventor : SEKIGUCHI KEIJI

## (54) STRUCTURE FOR LARGE-SIZED BAG HAVING ADJUSTABLE THROW-IN PORT AND USE THEREOF

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To easily accommodate various places where contents are put, types of contents to be put in, etc., for reuse of a bag by forming a blind-like bag including slidably adjustable string at a border between an upper lid of an upper lid part and a part to be a throw-in port and also providing a string for fastening the port near a rim.

**CONSTITUTION:** An adjusting string (d) of a blind-like bag (c) is formed at a throw-in port (b) having a size specified as a full-open type by fastening from 100cm $\phi$  in the full-open type to 50cm $\phi$ ; for example. When contents to be received are of small quantity, the string is further fastened to be more stable with the contents pressed by an upper lid (a) to make it approximately 30cm $\phi$ . When the string (d) is pulled, the string (d) is fastened while being inserted into an adjust tube 12 not to have its posture lost. When the contents are put from the port (b), and the port is fastened by the string (f), an excess of the string (f) is used to hook on a ring-like hook 6, and this is bound to prevent from being loose.



BEST AVAILABLE COPY

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-11981

(43) 公開日 平成8年(1996)1月16日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

B 6 5 D 88/22

識別記号

A

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-141519

(22) 出願日 平成6年(1994)6月23日

(71) 出願人 390019264

ダイヤテックス株式会社

東京都千代田区内神田2丁目15番4号

(72) 発明者 関口 啓司

富山県黒部市杵掛2000番地 ダイヤテックス株式会社黒部工場内

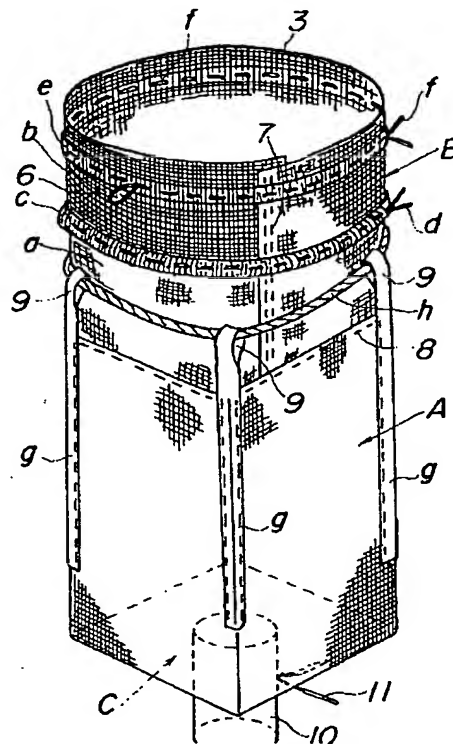
(74) 代理人 弁理士 渡辺 勲 (外1名)

(54) 【発明の名称】 調節自在な投入口を有する大型袋の構造体及びその使用方法

(57) 【要約】

【目的】 大型袋において、胴体部に縫着する上蓋体部の材料を変えることと、これに簡単な構成を施すことにより、大型袋を再度使用し、もって大型袋のコストダウンを図るにある。

【構成】 大型袋において、ポリオレフィン系のフラットヤーンクロス原反にて成形した胴体部に縫着する上蓋体部を、柔軟にして強靱なクロス原反で構成するとともに、この原反部分の投入口部となるべき位置に、滑動自在な調節紐入りすだれ状袋部を、また口縁部近くに口締め紐をそれぞれ設けた構成のものである。



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ポリオレフィン系フラットヤーンクロス原反で構成する胴体部に対し上蓋体部を縫着した大型袋体において、上蓋体部を柔軟にして強靱な原反で構成し、この上蓋体部の上蓋部と投入口部となるべき部分の境界部に、滑動自在な調節紐入りのすだれ状袋部を形成するとともに、口縁部近くに口締め紐を設けたことを特徴とする調節自在な投入口を有する大型袋の構造体。

【請求項 2】 上記の大型袋の構造体において、滑動自在な調節紐を引き絞ることによって、投入口を指定する大きさに構成するとともに、この投入口部より内容物を投入して口締め紐を締め括り、かつ調節紐を絞って荷姿を整える 1 回目の大型袋としての使用後、すだれ状袋部の調節紐及び口締め紐を解いて投入口部を全開口状態に緩め、この全開口を通して内容物を投入するとともに口締め紐を締め括って大型袋として再度使用することの特徴とする調節自在な投入口を有する大型袋の構造体の使用方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は一般的に知られているフレキシブルコンテナバッグの分野に属し、化学工業品、合成樹脂品、穀類や飼料、食品等の大量輸送、又は保管等に使用するワンウェーバッグに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来から知られているフレキシブルコンテナバッグには、ランニングタイプ、セミランニングタイプ、ワンウェータイプのものがそれぞれ普及されているが、何れも袋本体（胴体部）に対して独立した投入口を設けた上蓋を取付け、底部には下蓋を取付けて排出口を設けたものであって、吊り部の取付け方については、ベルト吊り、ロープ吊りがあり、それぞれ必要に応じて補強布を当て、縫製仕上、加工を施している。特にワンウェータイプのものにあっては、多種多様なものが市販されており、価格的に厳しいものの普及化が進んでいる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 以上のような状況下において、大型袋の構造は、生産性と、安全性との向上は勿論のことであるが、最近に至ってはワンウェーバッグの普及化が進むにつれて、空袋の再使用、または使用後の処理が問題となっている。再使用の場合は、例えば大型土壌としての活用や、飼料用、窯業用土石等の運搬、保管に再利用されてきたが、再使用の分野に利用する場合、70～80%の袋体が全開投入口を要求してきている。従って、再使用の場合には、投入口付き袋体を全開投入口型に改造し、手直しをしなければ使用できないので、その改造費用が高くなり、結果的に焼却処理する以外に始末する方法がなく、困っているのが現状である。

【0004】 本発明には、このような点に鑑みて、種々検討し研究した結果創出されたもので、その目的とするところは、従来の大型袋の製造工程中に、上蓋体部の材料を変えることと、これに簡単な構成を加えることにより、内容物の投入場所、投入内容物の種類等に容易に対処することができ、もって袋体を再使用することにより大型袋のコストの低下を図るにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 上記の目的を達成するために、本発明にあっては、大型袋を構成する袋体部（胴体部）に対し、これに縫着する上蓋体部を別個の柔軟にして強靱な原反で構成し、この上蓋体部に滑動自在な調節紐入りすだれ状袋部を形成することにより、この調節紐の引き絞りにて指定の大きさの投入口を構成し、またこれを解いて全開投入口に変換し、時によってはその逆にすることによって、1つの大型袋を2様に使用するようにして問題点の解決を図っている。例えば、投入口付き蓋体部を有する大型袋を、必要に応じてすだれ状袋部の滑動自在の調節紐と口縁部の口締め紐とを解いて緩めることにより全開投入口のものとして使用することができ、このように安全性を確保しつつ両用することによって、製造コストの低下を図っている。

【0006】 すなわち、本発明は、大型袋の構造体において、ポリオレフィン系のフラットヤーンクロス原反で形成の胴体部に縫着した上蓋体部を柔軟にして強靱な原反で構成し、この上蓋体部の上蓋部と投入口部となるべき部分の境界部に、滑動自在な調節紐入りのすだれ状袋部を形成するとともに、口縁部近くに口締め紐を設けた構成をとっており、またその使用においては、大型袋の構造体の開口部をして、指定する投入口部の大きさに、すだれ状袋部の調節紐を引き絞ることによって形成し、この投入口部より、例えば内容物の投入設備を有する箇所において内容物を投入し、口締め紐による口締めとともに調節紐を絞ることによって荷姿を整える 1 回目の使用と、その後における再度の使用の場合、すだれ状袋部の調節紐及び口締め紐を解いて全開の状態まで緩め、これに投入場所と内容物を選択することなく内容物を投入し、口締め紐で締め括って使用をするようにしている。

## 【0007】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。本発明の大型袋の構造体は、胴体部（A）と上蓋体部（B）とより構成されるものであるが、排出口部を有する下蓋体部（C）は、従来のものと変わるところはなく、なんら限定されるものではない。しかし、胴体部（A）に対する上蓋体部（B）は、従来のものとは全く異なる発想に基づくものである。

【0008】 すなわち、この上蓋体部（B）は、上蓋部（a）と投入口部（b）とから構成されるもので、これを構成する原反は、例えばポリプロピレン、ポリエチレン 1000D 等で 12～14 本/時× 12～14 本/

時程度の密度のフラットヤーンクロスからなり、柔軟にして強靱なものである。そしてその上蓋体部(B)の構成は、指定される大きさの投入口部(b)が形成される位置に、緯糸を複数本欠如させてすだれ状部を形成するとともに、このすだれ状部を外方に袋状にゆとりをもたせて緯方向に縫着(1)することによりすだれ状袋部(c)を設ける。このすだれ状袋部(c)には、経糸の複数本おきに、調節紐(d)を滑動自在に目通ししてある。

【0009】上蓋体部(B)のうち、下端縁(2)よりこのすだれ状袋部(c)の縫着部(1)の位置までが上蓋部(a)となる部分であり、この縫着部(1)より上端の口縁部(3)までが投入口部(b)となる部分である。この投入口部(b)には、その口縁部(3)近くに、上記と同様に緯糸の複数本を欠如したすだれ状部(e)に、経糸の複数本おきに口締め紐(f)を目通ししてある。この調節紐(d)入りのすだれ状袋部(c)も、口締め紐(f)共に原反の織成時に構成するものである。

【0010】図2は図1と同様なものであるが、すだれ状袋部(c')に目通しする滑動自在な調節紐(d')は、予め成形された目通し孔(4)に、また投入口部(b')の口締め紐(f')は予め成形された目通し孔(5)に目通しされるものである。この口締め紐(f)、(f')には、その一部にリング状フック部(6)、(6')が形成されている。以上のような構成の上蓋体部(B)、(B')は、図3に示すように全体が開放された筒状となるようにその両側縁部において互いに縫着(7)されている。

【0011】胴体部(A)は従来のものと同様なポリプロピレン、ポリエチレン等のポリオレフィン系フラットヤーンクロス原反より構成されるもので、その組織は、例えばポリプロピレン、ポリエチレン1500Dr~1700Drで、経12~17本/吋×緯12~17本/吋の原反のエンドレスのものであっても、クロス原反の長さ方向に縫着したものであってもよい。このような構成の胴体部(A)に対して、図3に示すように、その上周縁に、前記した構成の上蓋体部(B)の上蓋部(a)の下端縁(2)を縫着(8)している。なお、胴体部(A)には、角筒状を呈するように、その角部の位置に上方にフック部(9)を有する吊りベルト(g)を縫着するとともに、このフック部(9)に吊りロープ(h)が挿通されてる。(C)は下蓋体部であって、(10)はその排出口筒であり、(11)は締め紐である。

【0012】図3に示すものは、投入口が全開口型のものであるが、図4に示すものは、この全開口型のものを指定する大きさの投入口部(b)に、すだれ状袋部

(c)の調節紐(d)を、例えば全開口型の100cmφから50cmφに引き絞ることによって形成したものであるが、収納の内容物が少ないときは、上蓋部(a)で内

容物を押さえて安定するようにさらに絞り込み、30cmφ程度とすることもある。この調節紐(d)を絞るとき、その状態が崩れないように、調節紐(d)に調節管(12)を挿通して緊締する。内容物を投入口部(b)より投入して口締め紐(f)で締め括るとき、口締め紐(f)の余尺をもってリング状フック部(6)に引掛けて、これが緩まないように結縛する。

【0013】この大型袋は、通常は、図4、図5に示すように、上蓋体部(B)をそのすだれ状袋部(c)における調節紐(d)の絞り込みで投入口部(b)を形成するが、このときその絞り込みが安定するように調節管(12)をもって固定する。これと同時に、口締め紐(f)も同様に締め括る。このような状態で、穀類、飼料、化学工業品、合成樹脂品等を投入するときは、通常は投入設備を有するところであるが、内容物を投入した場合、その状態が安定するように、さらに調節紐(d)を調節管(12)で絞り、口締め紐(f)で締め括り、その余尺をもって図6に示すようにリング状フック部(6)に引掛けて結縛する。このように、内容物を充填して運搬し、保管等して使用した後において、再度大型袋として使用する場合には、図3に示すように調節紐(d)及び口締め紐(f)を解いて上蓋体部(B)を全開口状態とする。

【0014】このような場合にあっては、土砂、瓦礫、工場廃棄等の大きなものを収納する。土砂を収納して口締め紐(f)で締め括り、その余尺をもってリング状フック部(6)に引掛けて、これを結縛し、砂防工事、埋立工事等に大形の土嚢として使用する。以上のように、上蓋体部(B)を強靱にして柔軟性のある原反で形成し、これに滑動自在な調節紐入りのすだれ状袋部(c)を設けるだけの簡単な構成を施すだけで、穀類、飼料、化学工業品、合成樹脂品等を収納する筒状の投入口部(b)を形成した大型袋として使用し、その後において、土砂、瓦礫、工場廃棄物等の比較的大きな物を収納するときは、調節紐(d)及び口締め紐(f)を解いて全開口型の大型袋として再度使用するものである。このような使用は逆であってもよい。

【0015】

【発明の効果】本発明の大型袋は、従来のポリオレフィン系のフラットヤーンクロス原反で形成された胴体部に対し、柔軟にして強靱な原反で形成された上蓋体部を縫着した構成で、しかもこの上蓋体部中に滑動自在な調節紐入りのすだれ状袋部を設けるとともに口縁部近くに口締め紐を設けたものであるから、すだれ状袋部において調節紐を引き絞ることにより筒状の投入口部を容易に形成することができ、従来のような筒状の投入口部を設けた上蓋体部を胴体部に縫着した大型袋にあっては、独立した投入口部を縫着加工しているところから、切断、切付け、縫着、補強布の取付け等の諸作業が必要となり、製造工程が煩雑になってコスト高となるが、本発明にあ

つては、上蓋体部の織成時において、調節紐入りすだれ状袋部を形成し、口締め紐を打込むから、その製造工程が煩雑とまらない。

【0016】その上、使用に当っても、調節紐を引き絞って筒状の投入口部を形成した大型袋にあっては、これに内容物を投入充填した後において、内容物の充填状態により、上蓋部がだぶつき状態な場合は、調節紐をさらに引き絞ることによって上蓋部は均一に絞られ、ワンウェイバッグとして他に見られない安定した荷姿となり、段積作業やトラック輸送に役立つようになる。このような大型袋として使用した後において再使用するには、調節紐及び口締め紐を解いて緩め、上蓋体部を全開口型に変え、これに土砂、瓦礫、工場廃棄物等の比較的大きな物を投入して口締め紐を締め括って、その余尺をもってリング状フックに引掛けて結縛することができる。

【0017】特に土砂を詰めることによって、砂防工事、埋立て工事に土嚢として使用できるから、増え続けるこの種の大型袋の後処理としての効果を上げることができる。このように本発明の大型袋は、1つのものを積極的に再度使用することができるから、製造コストの低下を図ることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の大型袋を構成する上蓋体部の一部拡大平面図とその側面図である。

【図2】本発明の大型袋を構成する上蓋体部の一部拡大平面図である。

【図3】上蓋体部を大型袋の胴体部に縫着し、全開口型とした状態の斜視図である。

【図4】上蓋体部のすだれ状袋部における調節紐を引き絞って投入口部を形成した状態の斜視図である。

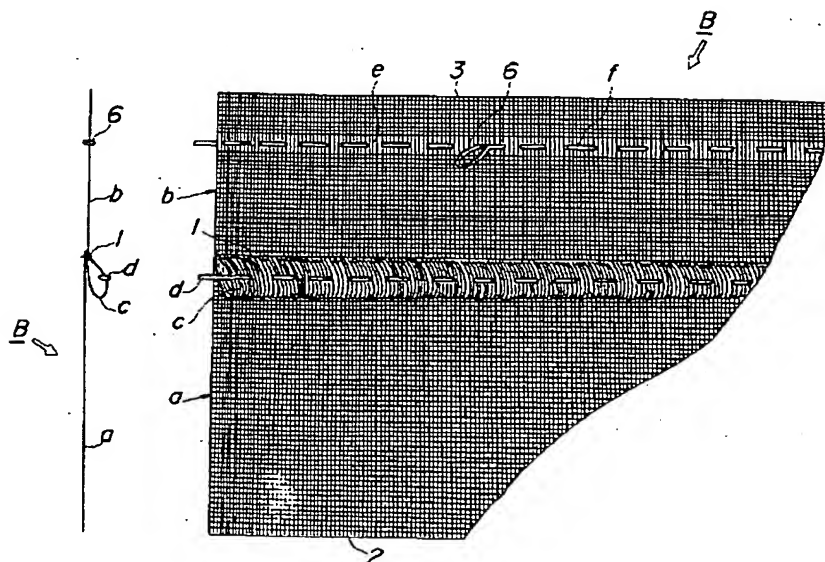
【図5】調節紐の引き絞りによって投入口部が形成された大型袋の斜視図である。

【図6】大型袋に内容物を充填し、調節紐を引き絞って固定し、口締め紐を締め括ってその余尺をリング状フック部に引掛けて結縛した状態の大型袋の上方部の斜視図である。

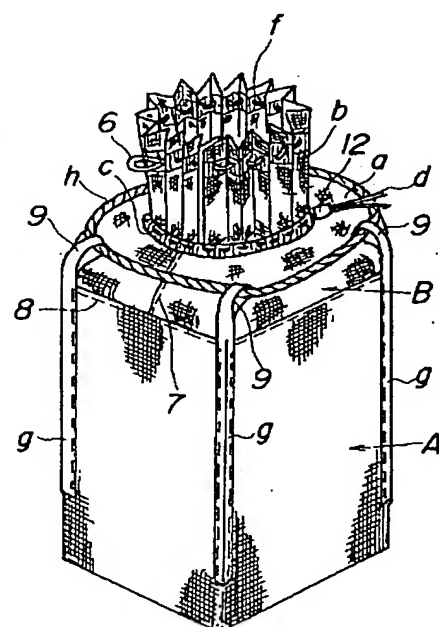
#### 【符号の説明】

- |    |          |
|----|----------|
| A  | 胴体部      |
| B  | 上蓋体部     |
| C  | 下蓋体部     |
| a  | 上蓋部      |
| b  | 投入口部     |
| c  | すだれ状袋部   |
| d  | 調節紐      |
| e  | すだれ状部    |
| f  | 口締め紐     |
| g  | 吊りベルト    |
| h  | 吊りロープ    |
| 1  | 縫着部      |
| 2  | 下端縁      |
| 3  | 口縁部      |
| 4  | 目通し孔     |
| 5  | 目通し孔     |
| 6  | リング状フック部 |
| 7  | 縫着部      |
| 8  | 縫着部      |
| 9  | フック部     |
| 10 | 排出口筒     |
| 11 | 締め紐      |
| 12 | 調節管      |

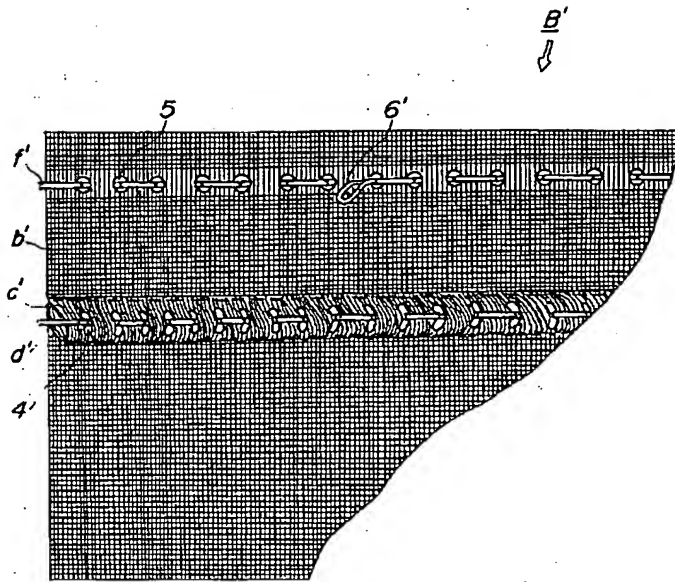
【図1】



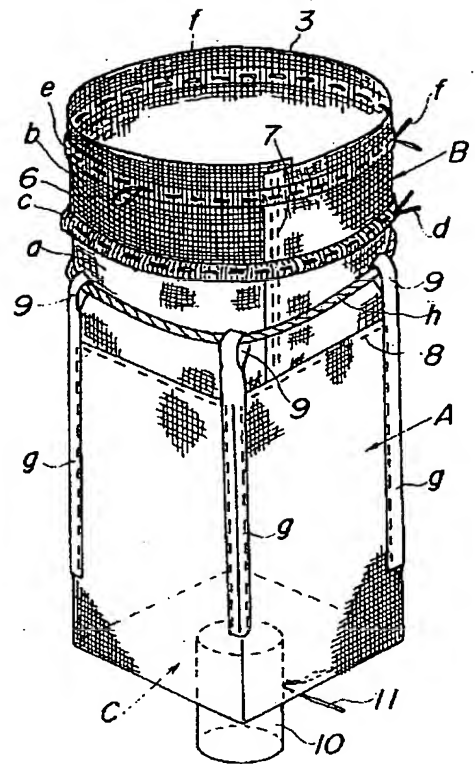
【図5】



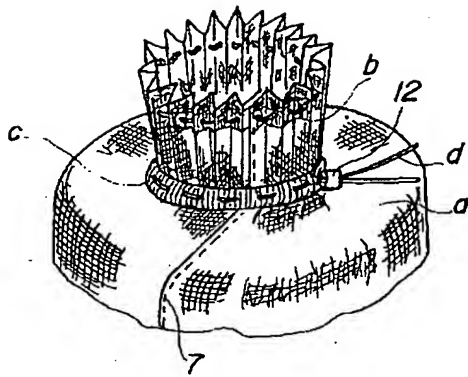
【図 2】



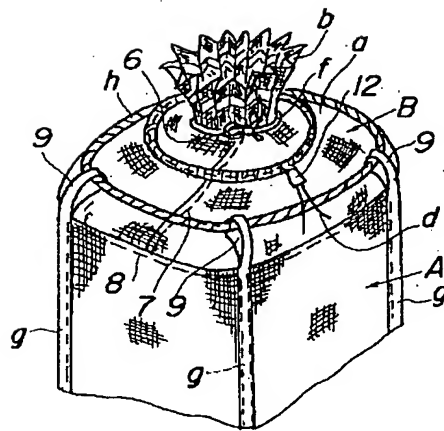
【図 3】



【図 4】



【図 6】



BEST AVAILABLE COPY